

臨床研究へのご協力をお願い

東京医科大学病院(病院長:山本謙吾)皮膚科では、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け承認の後、学長の許可のもと実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さまの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように患者さまのプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に検体やカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。不参加のお申し出があった場合も、患者さまに診療上の不利益が生じることはありません。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

[研究名称]

アレルギー性接触皮膚炎病変における T リンパ球内 TGF- 信号伝達に関する研究

[研究の背景と目的]

アレルギー性接触皮膚炎は皮膚に特定の原因物質が触れて、異物と認識した免疫システムが働き、アレルギー反応を起こして痒みを伴う湿疹が出る病気です。アレルギー性接触皮膚炎の治療には、ステロイド塗り薬と内服抗アレルギー薬が処方されますが、ステロイド塗り薬は長期にわたる使用で副作用の懸念があります。多くの研究者の努力によって、アレルギー性接触皮膚炎がどのようにして起こるかが次第に明らかになってきましたが、治療方法については長年進歩がありませんでした。

アレルギー性接触皮膚炎は、「かぶれ」と呼ばれ、刺激性物質による刺激性接触皮膚炎と異なり、触れた人全てに起こることはなく、原因物質にアレルギーのある人にもみ症状が出ます。外から体内に物質が入ってこないように防ぐ皮膚のバリア機能が何らかの原因で衰えると、原因物質が侵入し、皮膚にいる免疫を担当する細胞が見つめて異物として認識し、リンパ球に情報を伝えて一連のアレルギー反応を起こします。皮膚には形質転換増殖因子 (TGF-) という様々な働きをするタンパク質がたくさん存在しますが、アレルギー性接触皮膚炎で主に働いている T リンパ球に対してどのように働くか正確に分かっていません。

本研究は、アレルギー性接触皮膚炎と刺激性接触皮膚炎の患者さまの病理組織を比較し、アレルギー性接触皮膚炎部位に侵入した T リンパ球に対して TGF- がどのように働いているかを検討し、新しい治療標的の発見を目指します。

[研究の方法]

研究対象者となる基準

2010年4月1日から2022年3月31日に、当科で、包括同意書を頂いて皮膚生検が行われた、中等症以上と診断されたアレルギー性接触皮膚炎と刺激性接触皮膚炎患者さまのうち、成人しており、無作為に選ばれた方

研究期間

研究機関の長の許可日から2025年3月31日

利用する検体やカルテ情報

過去に皮膚生検によって採取した検体を少し切り取り、研究に使用いたします。

カルテから年齢・性別・治療法を参照します。

検体や情報の管理

検体及び情報は、直ちに個人が判別できる情報は含まれないよう加工されます。個人を識別できる情報を削除し、研究登録番号等で置き換える等の方法で加工された削除情報等並びに加工方法情報等は、病院の研究責任者(大久保ゆかり)の指示に基づき施錠された場所またはパスワードで保護された電子情報として保管されます。

利用又は提供を開始する予定日

2023年7月21日

[実施体制]

施設名	東京医科大学病院			
役割	診療科	職名	氏名	研究における具体的な業務
研究責任者	皮膚科	教授	大久保ゆかり	検体収集、疾患・病理評価、情報の管理、統括
研究分担者	分子病理学分野	主任教授	黒田雅彦	病理診断
研究分担者	先端核酸医療講座	兼任教授	真村瑞子	実験、データ解析・評価

[問い合わせ先]

施設名	東京医科大学病院
所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1
担当者名	大久保ゆかり
診療科(部署)	皮膚科
電話番号	03 - 3342 - 6111 内線 2621
受付日時	平日 9:00 ~ 17:00